

# 大分市立明野中学校 令和元年度学力向上プラン

## 1 学力定着状況の概況

### ○中学2年生 大分県学力定着状況調査から

#### (1) 全体的な結果の捉え

正答率は英語の活用以外全ての教科で目標値を超えており、国語・数学では問題別、領域別、観点別においても全ての項目で目標値を超えている。領域別では、社会は「世界の地域構成」、理科は「地球」、英語は「読むこと」が目標値を超えていないが、観点別ではすべての教科で目標値を超えているので、全体的な定着状況は概ね高い状態であるといえる。

#### ア 本校正答率と目標値との比較(網掛けは下回っている部分)

国語	全体 71.7(+8.2)	知識 72.8(+8.0)	活用 68.1(+8.8)
社会	全体 69.4(+6.7)	知識 73.2(+6.8)	活用 55.3(+6.1)
数学	全体 65.1(+11.1)	知識 71.2(+13.2)	活用 40.5(+2.6)
理科	全体 61.6(+4.2)	知識 61.6(+3.5)	活用 61.6(+6.0)
英語	全体 62.1(+1.7)	知識 69.2(+3.0)	活用 44.3(-1.7)

#### イ 問題別正答率について(目標値を10P以上上回る内容と下回る内容)

##### <10P以上上回る内容>

国語	漢字を書く	12.0
	文法・語句に関する知識	13.3
社会	古墳時代まで	12.8
	中世の日本	10.3
数学	計算の復習	15.3
	正の数・負の数	13.0
	文字式	11.0
	1次方程式	13.9
	比例・反比例	10.5
	資料の散らばりと代表値	10.6
理科	植物の分類	14.0
英語	単語の並びかえによる英作文	11.4

##### <10P以上下回る内容>

該当なし

#### ウ 領域別正答率について

国語・数学については全ての領域で目標値を上回っている。

社会については「世界の地域構成」が2.9P、理科については「地球」が1.9P、英語については「読むこと」が3.6P下回っている。

#### エ 観点別正答率について

全教科、全ての観点で目標値を上回っている。



○中3全国学力・学習状況調査から(左:本校 右:全国)

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
	本校	全国				
国語	77.0	72.8	話すこと・聞くこと	74.5	関心・意欲・態度	80.5
			書くこと	88.0	話す・聞く態度	74.5
			読むこと	78.2	書く能力	88.0
			言語文化と国語の特質	68.7	読む能力	78.2
			—	—	知識・理解・技能	68.7

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
	本校	全国				
数学	65.0	59.8	数と式	71.9	関心・意欲・態度	—
			図形	74.4	見方や考え方	54.3
			関数	50.5	技能	73.4
			資料の活用	59.3	知識・理解	78.2

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
	本校	全国				
英語	59.0	56.0	聞くこと	69.3	関心・意欲・態度	—
			話すこと (参考値)	—	英語表現の能力	3.7
			読むこと	57.6	英語理解の能力	46.7
			書くこと	51.0	知識・理解	68.2

※領域別・観点別すべての項目で全国を上回っている。

教科	正答率		領域別正答率		観点別正答率	
	本校	全国				
英語 話すこと	32.0	30.8	聞くこと	—	関心・意欲・態度	—
			話すこと	32.0	英語表現の能力	32.0
			読むこと	—	英語理解の能力	—
			書くこと	—	知識・理解	32.0

※「言語や文化についての知識・理解」以外すべての項目で全国を上回っている。



## 2 具体的取組

### (1) 共通

- ・教科横断的な取組を学校評価と連動させて行う。

区分	主に学校経営に係る重点目標と関連させる取組	
	具体的方策	取組
全科	(1)授業改善による学力向上を図る。 (ICT機器の有効活用)	①班活動を取り入れた授業の実践を100%行い、「わかった、できた」という達成感を感じる生徒を90%以上にする。授業で疑問点やわからないところを解決・理解できるように取り組んでいると感じる生徒、70%以上にする。
	(2)学習規律の確立を図る。	②「学習態度向上プロジェクト」(学習委員会活動)を授業で行い、学習規律達成を90%以上にする。
	(3)家庭との協働を図る。	③家庭では、家庭学習についての資料を活用し、家庭学習の時間の確保に努めてもらう。 学校では、課題を提示し、帰りの会で課題の確認を行い、実施させることで定期考査でのC層(30点以下)の生徒を10%以下にする。

### (2) 教科別

- ・学校研究と連動させ、研究と実践の一体化を図る。
- ・ここでは5教科の取組を記載するが、技能教科も準ずる。

区分	生徒の状況	主に判断力・思考力・表現力を高めさせる取組等		評価	
		つきたい力	取組		
教科別	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・既習の漢字が身に付いていない。</li> <li>・文章の読み取りや書くことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を書く力</li> <li>○文章を読み取る力</li> <li>○書く力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に漢字テストを実施して既習漢字の定着を図る。</li> <li>・ワークシート等を利用して読むための手順を身につかせながら、単元ごとに「話す・聞く・書く」活動を必ず入れるようにする。</li> <li>・自分の考えを、根拠を明確にして書いたものを交流する場を設定する。</li> </ul>	
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律が身につけており、落ち着いた雰囲気です授業に取り組んでいる。</li> <li>・基礎的基本的な内容への理解力は高いが、考えたり表現したりすることが苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーション能力</li> <li>○資料を読み取る力</li> <li>○社会的事象を捉え、考える力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時間完結型の授業の中で、考え、自分の意見をまとめる時間を確保する。</li> <li>・班での討議やディベートなどの活動を取り入れる。</li> <li>・問題演習やテスト後の解説を丁寧に行い、やり直しを徹底させる。</li> <li>・時事問題や資料を活用した問題にも触れ、自分の考えを持たせる。</li> </ul>	

数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律を守り、意欲的に授業に取り組める。</li> <li>・授業での課題やプリントに積極的に取り組む。</li> <li>・計算力の向上は見られたが、文章読解力が乏しく長文の文章題に対応できない傾向にある。</li> <li>・応用問題や発展的な内容に対して、徐々に粘り強く取り組むことができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の定着</li> <li>○数学的な見方・考え方</li> <li>○文章読解力</li> <li>○筋道立てて説明する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業始めのプリント、家庭学習の活用によって多くの問題にふれさせる。</li> <li>・適宜、班活動を取り入れ、話し合いや教え合いが展開される授業をする。</li> <li>・言語活動の場面を設定し、自分の考えを説明したり、発表したりさせる。</li> <li>・答えを導き出すまでの過程や理由を、数学用語を用いて説明する活動を取り入れる。</li> <li>・学習事項の定着が不十分な生徒に対する個別支援を行う。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験には意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・計算力の不足。</li> <li>・めあて、課題、予想、実験、結果、考察という授業形態を取り入れ、考えながら学習する習慣が身についた。</li> <li>・予想や原因、結果に根拠を持って説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の活用力</li> <li>○思考・表現力</li> <li>○技能</li> <li>○知識・理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な用語を用い、理由を説明させることにより思考力・表現力を育成する場を繰り返す。</li> <li>・パフォーマンステストを適宜入れ、実験や観察の技能を定着させる。</li> <li>・めあてや課題を適時に提示するとともに、板書の構造化により基礎学力の定着を図る。</li> <li>・実験の予想を立てる際に、根拠となる事項を書かせる。</li> </ul>
英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で音読や積極的に手を挙げて発表など意欲的に授業に取り組む姿が見られる。</li> <li>・話す活動と静かに書く活動のメリハリがある。</li> <li>・話す活動や班活動に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・発表については自分の意見をもつことができていた。</li> <li>・英語でのリアクション（相づちなど）を取ることができるので、活動の雰囲気がよく、コミュニケーション活動が円滑にできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く力</li> <li>○話す力</li> <li>○読む力</li> <li>○書く力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力の礎となる語彙や表現を定着させる。</li> <li>・言語活動で表現したことを文章化させる。また個、全体にフィードバックを行う。</li> <li>・小グループ・ペア活動を継続して取り入れ、協働学習の場を取り入れる。また英語が苦手な生徒を教え合いで支援する。</li> <li>・表現したくなるようなトピックの工夫とタスク活動を行う。</li> <li>・ICTを活用する。</li> </ul>

### (3) 家庭・地域との協働

#### ○家庭との協働

- ・家庭は、家庭学習の時間確保に努める。
- ・家庭学習の手引き等を作成し、家庭学習の仕方について示し、協力を得る。

#### ○地域との協働

- ・補充学習への協力体制を整える
- ・オープンスクールでの授業参観に対するアンケート協力

